# 我が国とカリブ共同体（カリコム）諸国の関係

平成30年10月
外務省カリブ室

## 1．カリコム諸国の重要性

➢基本的価値の共有と我が国との共通性
（民主主義、 島国（含：沿岸低地国）及び自然災害）

➢国際場裡における一大勢力（14か国）
（各種国際選挙，安保理改革，海洋生物資源の持続可能な利用等
日本の立場を支持・理解）

➢地球規模課題での協力
（環境・防災等）

## 2．カリコム諸国情勢

➢小島嶼開発途上国特有の脆弱性
（小規模経済、自然災害、気候変動の影響大
資源・エネルギーや必需品の輸入依存度が高い）

➢欧米への経済依存。観光、金融センター等。

## カリコム諸国の対外政策

①カリコムを通じた共通市場の形成、外交政策の調整
②外交の多角化（非同盟諸国（NAM）、小島嶼国連合、中国（14か国のうち9か国と国交）、ベネズエラ、キューバ等との関係強化）

## 3．日・カリコム諸国関係

➢第1回日・カリコム首脳会合：2014年7月（ﾄﾘﾆﾀﾞｰﾄﾞ・ﾄﾊﾞｺﾞ）：安倍総理が「日本の対カリコム政策」を表明
①小島嶼開発途上国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力②交流と友好の絆の拡大と深化③国際社会の諸課題への取組における協力

➢日・カリコム外相会合：第1回 2000年（東京），第2回 2010年9月（東京），第3回 2013年9月（NY），第4回 2014年11月（東京：「共同閣僚声明」採択），第5回 2016年9月（NY）に実施。 第6回 2018年9月（NY ：「日本の対カリコム政策」三本柱に基づき，日・カリコム関係の発展・強化を確認）

➢政策対話：1993年から，ほぼ毎年，日・カリコム事務レベル協議を実施（先方：外務次官、当方：中南米局長）。

➢日・カリブ交流年(2014年)：日本とカリコム諸国の交流を深めることを目的とした記念事業を日本及びカリコム諸国で実施。

➢最近の要人訪問：2014年1月，石原外務大臣政務官がﾍﾞﾘｰｽﾞ訪問。同年5月，牧野外務大臣政務官がｸﾞﾚﾅﾀﾞ訪問。同年7月，安倍総理がﾄﾘﾆﾀﾞｰﾄﾞ・ﾄﾊﾞｺﾞ訪問。2015年1月，宇都外務大臣政務官がｾﾝﾄﾙｼｱ，ｶﾞｲｱﾅ，ﾄﾘﾆﾀﾞｰﾄﾞ・ﾄﾊﾞｺﾞ訪問。同年5月，中山外務副大臣がｼﾞｬﾏｲｶ，ｾﾝﾄﾙｼｱ訪問，同年6月，宇都外務大臣政務官がﾊﾞﾊﾏ，ｱﾝﾃｨｸﾞｱ・ﾊﾞｰﾌﾞｰﾀﾞ訪問。同年9月，安倍総理がｼﾞｬﾏｲｶ訪問。2017年1月，武井外務大臣政務官がﾍﾞﾘｰｽﾞ訪問。同年2月，薗浦外務副大臣がﾊｲﾁ訪問。同年5月，武井外務大臣政務官がﾊﾞﾙﾊﾞﾄﾞｽ訪問。同年7月薗浦副大臣がﾄﾘﾆﾀﾞｰﾄﾞ・ﾄﾊﾞｺﾞ，ｾﾝﾄﾙｼｱ，ｽﾘﾅﾑ，ｼﾞｬﾏｲｶ訪問。2018年4月，岡本外務大臣政務官がﾍﾞﾘｰｽﾞ訪問，同年5月，佐藤外務副大臣がﾊﾞﾙﾊﾞﾄﾞｽ，ｱﾝﾃｨｸﾞｱ・ﾊﾞｰﾌﾞｰﾀﾞ，ﾄﾞﾐﾆｶ国訪問。同年7月，岡本外務大臣政務官がｸﾞﾚﾅﾀﾞ訪問。